



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)

みどりの大使が行く!



2025

ミス日本
みどりの大使

佐塚 こころ

石川県に行ってきました

こんにちは。2025ミス日本みどりの大使の佐塚こころです。4月29日、石川県で開催された第39回県民みどりの祭典に参加し、緑の募金の呼びかけや苗木作りの体験をしてきました。

会場である石川県森林公園「緑化の広場」に到着すると最初に大きな木が目に入りました。気になって由緒をお伺いしたところ、昭和58年5月22日に昭和天皇が苗木を



お手植えになったスギとアテ(能登ヒバ)だそうです。ねじれながら伸びているアテは私にとって珍しくとても印象的でした。

第39回県民みどりの祭典にて

祭典が始まってからは緑の募金の呼びかけと来場者の方に苗木をお配りしました。緑の募金は令和6年に発生した能登半島地震の復旧支援用途限定募金としても役立っております。この呼びかけで会場にお集まりいただいた皆様にも緑の募金のことをもっと知っていただくことができればいいです。苗木もたくさんの方に受け取っていただきました。「お庭に植えます」とおっしゃられた方もいて緑の輪が広がっていいいなと感じました。



展示ブースでは、緑の少年団の子もたちと一緒に苗木作りをしました。実際に作ってみると、形が崩れないよう下の方の土は固く真ん中の土は少し柔らかめに詰める必要があり一つ一つの工程に工夫が施されていることが分かりました。この苗木も

いつか立派な木へと育つのだな、木の生長をずっと見ていきたいと思いました。

令和6年能登半島地震被災地域を視察

祭典の翌日には能登半島地震で被災された地域を視察しました。震災が起きてから、被災地域に行くのは初めてだったので緊張感を持ちながら伺いました。地震によって火災が発生した輪島市の朝市通りや隆起した海岸線などを視察しました。被災から1年以上が経過し、復興が進んでいる場所がある一方、未だ災害当初のままの場所も多く、自然災害の強さを痛感しました。さらに、門前地区の仮設住宅では実際に組手^{ぐみ}が使用されている場面も拝見しました。住民の方が自分の好きなように組み立てられてとても使いやすいとおっしゃっていて、これも沢山の方々緑の募金に協力



して下さったおかげだと実感できてとても嬉しかったです。能登の復興支援に限らず、最近では岩手県大船渡市等の山火事の復旧支援にも緑の募金は有効利用されております。現場でお話を伺った石川県の方は震災に対して暗い思いだけではなく、これからどう未来に繋げていくかという前向きな姿勢で復興に向けて取り組まれています。今回、自分の目で緑の募金が活用されているのを見たことで、一層みどりの大使としての活動に対する意義を感じる事ができました。これからも広い視野で私たちの将来を見据え、皆様が豊かな生活ができるよう森林の大切さの普及活動に努めていきたいです。

